

マテリアリティ(重要課題)

マテリアリティ(重要課題)の特定・見直しプロセス

三菱電機グループは、社会動向や事業環境に鑑み、GRIガイドライン第4版で要求されていたマテリアリティ(重要課題)と取組み項目を2015年度に特定しました。

2020年度には、三菱電機グループ従業員、お取引先、投資家・アナリスト、一般消費者等計1,551名のアンケートおよび聞き取り調査による社内外からの客観的な評価を考慮した上で、社内のサステナビリティ専門部会やサステナビリティ事業推進部会において議論を重ね、マテリアリティ(重要課題)、中長期の取組み、目標/取組み指標(KPI)について全面的な見直しを行いました。

また、2016年度から継続している一般消費者向けのステークホルダーアンケート(600名)は2021年度も実施し、社外からの評価を考慮した上で、これらの中長期の取組みや目標を見直しています。

今後も社内外の声を取り入れながら、PDCAサイクルにより、マテリアリティ(重要課題)、中長期の取組み、目標/取組み指標(KPI)について継続的に改善していきます。

Step 1 社会的課題の認識(2020年度実施)

ISO26000^{※1}、GRIスタンダード^{※2}、SASB^{※3}、SDGs(持続可能な開発目標)等をもとに、マテリアリティ(重要課題)の候補となる項目(357項目)から、事業と関連の深い項目等を抽出し、ショートリスト化(35項目)を行いました。

※1 国際標準化機構(ISO)が発行する社会的責任に関する手引き

※2 国際NGOであるGRI(Global Reporting Initiative)が発行する持続可能性報告のための国際的な規準

※3 国の非営利組織SASB(Sustainability Accounting Standards Boardサステナビリティ会計基準審議会)でつくられたESG(環境、社会、ガバナンス)に関する情報開示ルール

Step 2 社内外の意見の把握とマテリアリティ(重要課題)の検討(2020年度実施)

Step1で作成したショートリストから、ステークホルダーである消費者、サプライヤー、投資家及び三菱電機グループ従業員に対して、三菱電機グループにどのような社会課題解決の貢献を期待しているか、アンケートを実施しました。また、有識者へのヒアリングや有識者とのダイアログを通じてマテリアリティ(重要課題)特定に対するご意見をいただき、三菱電機グループに対する社内外の意見を把握しました。これらの結果を基に、社内ワーキンググループにて三菱電機グループが最優先で対応すべき課題の絞り込み等を行い、サステナビリティ専門部会及びサステナビリティ事業推進部会にてマテリアリティ(重要課題)を検討しました。

Step 3 マテリアリティ(重要課題)の特定(2020年度実施)

サステナビリティ委員会での特定

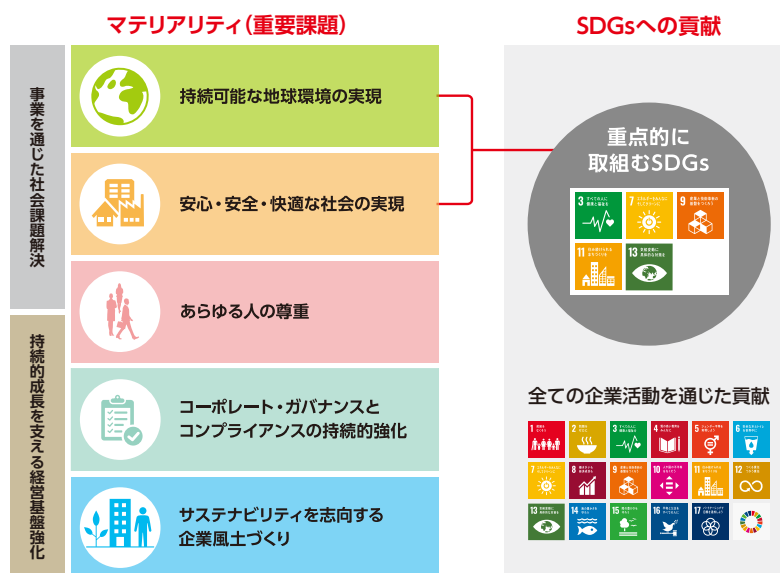
このようなプロセスを経て抽出・検討した課題と具体的な取組み項目、目標/取組み指標(KPI)を執行役等にて確認し、三菱電機グループのマテリアリティ(重要課題)としてサステナビリティ委員会で特定しました。

重点的に取り組むSDGs

2018年度に定めた「重点的に取り組むSDGs」について、2021年度のマテリアリティ(重要課題)特定にあわせて、見直しを行いました。見直しにあたって、社内外アンケートでSDGsへの貢献について期待の高い項目を確認した結果、事業を通じた社会課題解決への期待が高いことが判明しました。

社内での検討の結果、三菱電機グループが今後注力していく「持続可能な地球環境の実現」「安心・安全・快適な社会の実現」に対応する目標3、7、9、11、13を「重点的に取り組むSDGs」としました。総合電機メーカーとしての強みを発揮できるこれらの目標に対し、価値創出への取組みをより一層推進することで、SDGsの目標の達成に具体的に貢献します。

今後も三菱電機グループはSDGsの考え方を経営に統合し、重点的に取り組むSDGsに対してマテリアリティ(重要課題)の取組みを通じて貢献していきます。



中長期の取組みと2023年度の目標 (17項目)

マテリアリティ	項目	長期目標	中期目標/取組み指標 (KPI)	2023年度目標/取組み指標 (KPI)	範囲
持続可能な地球環境の実現	カーボンニュートラル	【Scope 1、2、3】 2050年度 バリューチェーン全体での温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す	【Scope 1、2】 2030年度 工場・オフィスからの温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す	新製品「製品使用時のCO ₂ 排出量」改善率1.0%以上	三菱電機グループ
			工場・オフィスからの温室効果ガス排出量を2013年度比で30%以上削減	三菱電機グループ	
	イノベーションと統合ソリューションによる「脱炭素社会」の実現	「カーボンニュートラル」へ貢献できる製品やサービス、ソリューションの提供	三菱電機グループ		
安心・安全・快適な社会の実現	安心・安全、インクルージョン、ウェルビーイング	事業を通じた安心・安全、インクルージョン、ウェルビーイングの実現	「安心・安全」へ貢献できる製品やサービス、ソリューションの提供	プラスチック排出物の有効利用率90%以上	三菱電機グループ
			「インクルージョン」、「ウェルビーイング」へ貢献できる製品やサービス、ソリューションの提供		
あらゆる人の尊重	人権	国際規範に基づく人権の取組み定着と責任あるサプライチェーンの実現	2024年度 国際規範に則った人権デューデリジェンスの基盤整備	国連ビジネスと人権に関する指導原則に基づく人権インパクトアセスメントの全事業本部への実施	三菱電機グループ
			2024年度 RBAプロセスに基づくサプライチェーンにおける人権尊重の仕組みの構築	サプライヤ人権デューデリジェンスのRBAプロセス移行に向けた運営整備	
	人財	多様・多様な人財が集い、活躍する環境の実現	2025年度 従業員エンゲージメントスコア ^{※1} 70%以上(三菱電機)、60%以上(国内関係会社の一部)	・組織風土改革(関連諸施策)の着実な遂行 ・キャリア自律支援強化 ・新人事処遇制度の検討等	三菱電機グループ(国内)
			2030年度 経営層 ^{※2} に占める女性&外国人比率 30%以上	・社外人材の戦略的採用活動推進 ・社内における経営幹部候補人材の計画的サクセッション等	三菱電機
2030年度 女性管理職比率 12%以上	・女性管理職登用プログラムの推進 ・経営幹部候補育成プログラムとの連動等	三菱電機			
コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの持続的強化	ガバナンス	取締役会の実効性の向上	社外取締役 50%超の継続	・社外取締役50%超 ・株主総会参考書類におけるスキルマトリックスの継続開示 ・社外取締役の取締役会議長就任	三菱電機
	品質	品質不適切行為の再発防止	3つの改革(品質風土改革、組織風土改革、ガバナンス改革)の推進、取締役会による3つの改革のモニタリング及び適切な情報開示		三菱電機グループ
	コンプライアンス	"Always Act with Integrity"の真の理解と浸透	コンプライアンス研修の継続的実施		三菱電機グループ
	情報セキュリティ	サイバーセキュリティ成熟度の向上	2028年度 サイバーセキュリティ成熟度モデル ^{※3} のレベル2以上をグループで達成		三菱電機グループ
サステナビリティを志向する企業風土づくり	サステナビリティの理解と実践	従業員によるサステナビリティの理解と実践	2025年度 従業員意識サーベイの「企業理念・目標に沿った業務の実施」良好回答率75%以上	社内報やイントラネット、教育等を通じたサステナビリティマインドの醸成	三菱電機
	コミュニケーション	社内外のステークホルダーとのコミュニケーションの推進	サステナビリティレポート及び統合報告書の発行 有識者ダイアログ及びサステナビリティレポートアンケートの実施		三菱電機グループ

※1 毎年実施（2021年度からは年2回実施）する「従業員意識サーベイ」の対象5設問に対する良好回答割合の平均値。「当社で働くことの誇り」「貢献意欲」「転職希望」「他者に対する当社への入社推奨」「仕事を通じた達成感」

※2 上席執行役員、執行役、取締役

※3 米国防総省が発行する、サイバーセキュリティ成熟度モデルの認証の枠組み